～留学報告書～

私は交換留学でタイ王国のチェンマイという都市に留学をしました。タイへは国際参加プロジェクト(IPP)で一度行ったことがあったので印象は良く、タイはどの地域へ行っても親切な人が多く、助け合いの精神であるため好感度も最初から高かったです。しかしながら、交通や生活環境、供給インフラなどは日本と比べると整っていませんでした。そのため、日本の生活で慣れてしまっていると、留学生活が始まって最初の 2，3 週間は過ごしにくさを感じていました。

さらに、大学の授業は到着してから 1 週間も経たないうちに開始され、1 限目は朝 8 時から始まり、授業は全て英語で展開されるため、生活リズムを合わせるのも苦労しました。しかし、その生活のおかげで留学中は規則正しく健康的な生活を送ることができ、帰国してからも同じような生活リズムを継続できています。そして、寮には電子レンジ、炊飯器、給湯器が部屋に設置してあり、部屋もきれいでした。

大学での授業は学部に入っていたため、日本と同じく自分が興味のある授業を選択することが出来ました。中でも私は“English Through Entertainment Media”と“English for Hotel Business”の 2 つが印象に残っています。1 つ目の授業では SNS やカートゥーン、音楽などを用いて進められ、参考書や教科書を使う事だけが勉強ではないことを実感しました。そして、課題で好きな英語の曲を歌い、歌詞について説明をするものがありました。2 つ目の授業では、ホテルのいろはを英語で学ぶことが出来ました。フロントスタッフや清掃スタッフなどそれぞれに求められる力はもちろん、クレーム対応の仕方、テーブルマナーも学ぶことが出来ました。そして、一度だけ実際にホテルへ訪問させていただき、現役のスタッフの方々からホテル業務について直接教えていただく機会もあり、日本では絶対にできない経験をすることができました。

フレンドリーな学生が多く、授業に行くだけで友達が出来ました。なので、放課後や休日などは現地で出来た友達と遊びに行ったり、ご飯を食べに行ったりしていました。在学生にはタイ人だけでなく、ミャンマーやブータン、中国の学生もいたので日タイ以外でも異文化交流をすることができました。大学の先生や留学サポートをしてくださる職員さん達もとても親切でフレンドリーだったので、大学行事がある際は一緒に楽しんでいました。

留学へ行く前までは人前で話すことや机に向かって勉強をすることがとても苦手でした。しかし、留学へ行ってからは違いました。話せるようにならないと生活が出来ないという状況であったり、プレゼンの課題が多かったりしたので、苦手意識はありますが、自分から行動が出来るようになりました。勉強も SNS などを上手く使う事で自然と苦手意識が減っていったのを実感していました。留学へ行く前に掲げていた英語もタイ語も使えるようになるという目標を達成することはできませんでした。勉強での大きな成果がないため、これから成果を出せるように努力を重ねていきたいと思います。

今留学へ行こうか迷っている方はぜひ行ってみてください。留学だからこそ経験できないことが絶対にあります。ビザの申請や航空券の手配などはなるべく早めに行っておくことを強くオススメいたします。